

保護者による評価

A環境面

(児発)しっかり施設されていて安心

(児発)入館前の体温計が脇だと衛生面が気になる。非接触体温計だと助かる。

(児発)体温計のウェットティッシュが毎回交換されているのか気になる。

(児発)あと1時間くらい長く預けられたら嬉しい。

(共通)清潔で安心。清潔で片付いている。

B児童への支援内容

(児発)きめ細かな支援をしてくれて、安心して子供を預ける事ができている。1対1で安心。

(共通)発達状況に合わせた支援になっており、計画書に沿った療育が行われている。

(児発)家ではなかなか出来ない事をしてきている。

(放デイ)家庭では出来ない事にも挑戦できている。無理だろうと思っていた事が出来るようになった。

(放デイ)1年を通して色々な製作や子どもに合わせたおやつ形態を工夫してくれてありがたい。

(児発)子どもの楽しめる活動になっていないと感じている人もいる。

(共通)相談した事が職員間で共通理解がされていると思ってもらえている。

(放デイ)個性をととても理解して、上手に誘導してくれる。定期的に変わるこだわりにも対応してくれる。

(児発)専門性に満足している。

(児発)専門性にあまり満足していないと感じている方がいる。

(放デイ)毎月の活動予定がある。

C関係機関との連携

(共通)外部との交流は望まないという考えが多い。

(児発)今のままでいい。プライバシー的に。

(放デイ)外部との交流がコロナの影響でなく、残念。

(放デイ)さくらんぼのお友達で十分だと思う。

D保護者への説明責任・信頼関係

(共通)契約時に丁寧な説明がされている。

(共通)相談内容を迅速に支援に反映されていないと感じている方がいる。

(児発)ガイドラインの説明がされていないと感じている方がいる。

(放デイ)ガイドラインに沿った個別計画書の説明をされていない方がいる。

(共通)発達状況に合わせた個別支援計画書を作成してくれている。

(児発)困った行動に相談しやすくアドバイスがもらえる。対応方法を示してくれる。

(児発)個人情報への配慮に未記入の方があるので、足りていないと感じているのかもしれない。

(児発)連絡帳でのやりとりが行いやすい。すぐにアドバイスが返ってくる。

(共通)連絡帳に詳しく、丁寧に様子が書かれており、口頭でも説明してくれてわかりやすい。

(放デイ)研修はわからないが支援はしてもらっていると思う。

(共通)育ちを支える支援が行われていると感じてもらえている。

(共通)トラブルがあった時に状況報告をしてくれる。

(共通)療育的観点からのアドバイスが足りていない。

(共通)子どもの気持ちを一番に受け入れ、一緒に成長を見守ってくれているという安心感がある。

D 保護者への説明責任・信頼関係(つづき)

(共通)定期的な保護者面談が行われていて、子どもの様子が良くわかり、家での困り事を聞いてくれる。

助言も行われ、丁寧な面談は母の大切な時間となっていた。

(児発)明るく子どもの事を話してくれるので、話しやすい。

(放デイ)丁寧な対応で、家庭との連絡が密に取れていて安心。

(児発)職員の配慮が足りないと思っている方がいる。

(放デイ)相談・意見を伝えにくい雰囲気と感じている方がいる。

(共通)写真付きのおたよりがわかりやすく、嬉しい。

(共通)事業所との連絡方法、自己評価表の結果の発信が伝わっていない方がいる。

(共通)保護者の連携支援は「されていない」と回答は多いが、「望まない」「必要ない」の意見もある。

E 非常対応

(放デイ)毎月、防災訓練があった。

(児発)定期的な訓練がなされているかわからない。

(共通)マニュアルは見直しが必要で、説明にまで至っていない。

(共通)感染症の時は細目に連絡がきた。

(共通)コロナ禍でも預かってもらえてありがたい。

F 満足度

(共通)通所を楽しみにしてくれているお子様が多い。

(児発)自ら通所を楽しみにしていて、さくらんぼの日が待ちきれない。

(放デイ)通所を楽しみにしていない理由を書いている。

(共通)利用した事で子どもの成長が感じられている。

(放デイ)親が想像していなかった以上の子どもの成長があった。

(児発)落ち込む日々から子どもだけでなく、保護者も救われた。

(児発)児童発達支援という制度のおかげで子どもが成長してきた。

(共通)安心できる居場所として定着した。

(放デイ)こどもと親に寄り添ってくれていると感じる。

(放デイ)放課後等デイサービスの休止は残念。卒業まで利用できると思っていたのに。

職員による自己評価

A環境面

- ・子どもの空間は清潔だと思うが、職員のスペースは片付けた方がいいところもある。
- ・視覚化支援は意識して取り組むようにしているが、どこまでやっていいのかわからない。
- ・視覚化支援を充実させる為には、環境整備に工夫が必要。
- ・求人方法の見直しはあったが、人材確保へのアプローチを続けるには、様々な方法の検討が必要。
- ・大学や専門学校への求人を出した方がいい。
- ・リタリコの求人サイトの活用をしていた。
- ・基準を満たしていても、適切な支援をしようと思えば、足りないと感じる時、時間帯もある。
- ・環境整備を意識して行える人と取り組む時間、余裕がない為出来ない事も多々あった。
- ・生活空間が清潔。
- ・『活動に合わせた空間』とは何を指しているのか。児童の特性に配慮された環境という意なのか。それならば、質問内容の見直しが必要と思う。
- ・構造化、バリアフリー化されていると感じている人が多い。

B児童への支援内容

- ・評価を公開しているが、新規の利用者への周知が出来ていない。
- ・研修はコロナ禍の影響により例年より少なかった。
- ・外部評価は行っていないが、今のやり方で意識づけ、改善はしていけると思う。
- ・支援に関してはPDCAサイクルが行われていた。
- ・評価表の結果を業務改善に繋がれたと感じている人が多い。
- ・業務改善は行っているが、様々な職員から意見をもっと取り入れられると良い。

C適切な支援の提供

- ・個別支援計画に沿った支援が行われている。
- ・朝のミーティングで個別支援計画の確認ができるといい。
- ・個別支援計画はアセスメントニーズに沿って作成出来ている。
- ・活動後ミーティングが出来ていない。運営体制が変わるので、今後出来るとよい。
- ・業務日誌で共有は出来ているが、振り返りは出来ていない。
- ・支援後の打ち合わせは出来ていないが、会議録で細かく共有ができています。
- ・毎日振り返りミーティングはないが、問題が起きた時にはしている。
- ・ガイドラインに沿った具体的な内容の設定は見直しが必要。
- ・記録に時間を割けず、正しく書けなかった。
- ・記録は細かく取るように心がけてはいるが、個人の感想を入れていいのか、ダメなのかわからない。
- ・活動前のミーティングは児発、放デイと行えている。
- ・支援の検証、改善の会議が毎月開催されている。
- ・モニタリングはしているが、計画書の見直しの必要性の判断に繋がっているかはわからない。
- ・活動内容の立案はチームでは行っておらず、常勤のみになってしまっている。

C 適切な支援の提供(つづき)

- ・活動内容は工夫しているが、当日のメンバーによっては固定化されやすくなってしまう。他の職員からもアドバイスが欲しい。
- ・固定の職員がやっていたので、限界はあるが、その中でも努力していたと思う。
- ・活動内容は短い時間の中で工夫はされていると思う。

D 関係機関や保護者との連携

- ・母子保健、子育て支援との連携は療育センターが担っている割合が多いので、児童発達支援は必要と思われているかわからない。
- ・移行支援は療育センターが担っているので、児童発達支援のところまでは求められに至らない。
- ・放デイは移行支援の対象となる児童がいなかった。
- ・共有したくとも園からの拒否もあるが、連携が取れる機関とは行っている。
- ・医療機関との連携はなく、保護者より情報を得ている。
- ・交流は公園で行った。
- ・保護者と子どもの状況や課題について共通理解をもっている。
- ・保護者の相談に乗り、助言は行っていた。
- ・家庭支援の助言は各保護者に対して行っていると思うが、プログラムとしてはわからない。
- ・家庭支援プログラムを事業所としてどのように支援していくか決まっていらないように思う。

E 保護者への説明

- ・保護者同士の連携支援は利用者(保護者)が望んでいたいこともあり、行うに至っていない。
- ・契約時に丁寧な説明を受けていると保護者評価があるので、そうなのだと思う。
- ・個人情報には十分配慮している。
- ・児童、保護者との意思疎通、情報伝達の為の配慮は、十分かわからないが、配慮をして行おうと思っている。
- ・地域に開かれた事業運営は、保護者の考え方が多様化し、その必要性、方法を考えていかなければいけないと思う。

F リスク管理

- ・マニュアルの見直しが滞っている。来年度は運営も変わるなので、進めてほしい。
- ・重心のお子様に対しては十分な訓練が行えていなかった。児童発達支援は足りていない。
- ・ヒヤリハット、事故、苦情報告は毎月の職員会議で議題にあがり、改善策を共有できている。
- ・身体拘束は児発管が面談毎に確認し、個別支援計画作成会議で共有している。

保護者による自己評価

職員による評価

A環境面

B児童への支援内容

C関係機関との連携

D保護者への説明責任・信頼関係

E非常対応

F満足度

*別紙記載

A環境面

B児童への支援内容

C適切な支援の提供

D関係機関や保護者との連携

E保護者への説明

Fリスク管理

*別紙記載

事業所内での分析

【共通点】【相違点】

- ・保護者から家庭支援プログラムを知らないという意見は多く、事業所としても具体的なプログラムを考えられていない事から評価に繋がっていないと思われる。
- ・評価表の公表の周知は新規契約時に伝えていない事で評価に反映されていないと考えられる。また、在籍者は紙面で配布しているが、ホームページ掲載までは伝えていなかった為、評価に反映されていないとも考えられる。
- ・防災訓練は放デイは毎月行っていた。児発は3月に行ったが、定期的に行えていなかった為、次年度は計画的に行っていくことで、周知を図っていけると考えられる。
- ・清潔感は保っている。
- ・外部との交流は望んでいない意見が多いため、進めにくい。
- ・一部の方より療育観点からのアドバイスが足りないとの評価を頂いている。『療育』とは？の考え、解釈に相違があるのかもしれない。我々も療育をしているので、事業所で行っている支援がどのように療育と繋がっているのかなど伝えていけるとよいのか。
- ・相談に対応していると感じてもらえている。

分析・検討してみたて…

事業所の強み

- ・事業所内が清潔
- ・相談、助言に対応できる職員が多い。
また、すぐに対応してくれる。
- ・児童の発達状況や課題について共通理解出来ている。
- ・計画書に沿って支援が行われている。

事業所の改善点

- ・支援の職員が足りていない。
利用者から忙しそうと思われており、
相談のしにくさを感じている人がいる。
- ・活動後ミーティングの実施
- ・評価公表の周知
- ・家庭支援プログラムを考えるにあたり、
他の事業所を知り、利用者ニーズを知る。

事業所の改善への取り組み

- ・人材不足－見直しは行われているが、様々な方法の検討が必要。大学、専門学校へ再度、依頼。
- ・ミーティングの充実－活動後ミーティングの再開。朝ミーティングでは計画書の支援確認をする。
- ・家庭支援プログラムを知り、ニーズを探る。
- ・アンケートの質問内容－回収率を上げる為に簡略化を図ったが、簡略化しすぎて、わかりにくさが出てしまった項目があった為、見直しをする。
- ・事業所で行っている事の発信が足りず、利用者に伝わっていない事も多いので、事業計画書にも入れているが、事業所の活動報告としても発信していきたい。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

- ・回収率を上げる為に簡略化を図ったが、簡略化しすぎて、わかりにくさが出た項目があった。1つの項目に2つも3つも質問が入ってしまい、回答のしにくさを招いてしまったと思われる。
- ・年度途中からの新しい職員もいた事で伝えきれていない事が見えた。
- ・『療育とは？』利用者との理解に相違があるのではないかと議論でき、事業所が療育として行っている事を発信していきたい。

事業所名 さくらんぼ

担当者 吉田 優美